



## 新設住宅着工戸数と木材需給量の推移！

1月1日の日刊木材新聞に1990年～2024年までの35年間の「木材需給量・新設住宅着工戸数推移と主な出来事」という特集記事が出た。この資料を基に業界の変遷を振り返ってみた。1990年(平成2年)は全国で170万戸、鹿児島県でも2万戸超の着工があった。当時は外材が8000万<sup>3</sup>m(製材用とパルプ他で7000万<sup>3</sup>m、合板用が1000万<sup>3</sup>m)、国産材は3500万<sup>3</sup>mほど需要があった。この年バブルがはじけ、翌年は137万戸と急減していますが、木材需給は若干増えています。97年には消費税5%が導入され、96年の駆け込み需要の為、98年には約120万戸と少なくなり、外材・国産材の需要も10000<sup>3</sup>mを割込みました。2006年、日本の人口減少が始まると同時に、住生活基本法の施行などで第2次ウッドショックが始まり駆け込みによる新設住宅が129万戸となりその後は減少に転じています。08年のリーマンショックの金融危機では翌09年には78.8万戸と過去最低の着工となりました。13年アベノミクスの木材利用ポイント制で国産材の利用が増え、98.7万戸になったものの、その後は消費税8%、10%でも、90万戸前後で低迷を続けている。20年コロナウイルスで流通が滞り、また急激な円安で、国産材の価格が急騰(第3次ウッドショック)しましたが、50年前の価格には届きませんでした。現在は、木材価格は若干下落したものの、建材や住設機器の価格は値上がりを続け、木造住宅の販売価格は高騰し、若い人への銀行融資が難しくなり、着工数が減少している。今後、2050年までの10大予測も記載されており、その中で、住宅着工50万戸時代の到来と、ライフスタイルの変化や、住宅の工場生産化の促進等の他に、循環(再造林=植えて、育てて、使う。現在の再造林率は50%弱)が促進されないと、木材は環境に優しい(森林の持つ生物多様性や、水源涵養など)というイメージが崩れ、1990年代に起きた「割りばし悪者論」のような、森林破壊防止の為に伐採制限のしようという議論が再び起こるかもしれないと警鐘を鳴らしている。

### 【情報】

第17回 ひらさ・北郷 桜まつりが開催されます！

日時 3月30日(日)13:30～15:30

会場 平佐城広場(ひらさ・ドラッグ・コスモス横)

参加費 無料(誰でも参加できます)

内容 AM11:00 からワークショップ

森と木の研究所で木工教室開催・他

午後 講話「西郷吉之助と川内」 今井俊子氏

平佐の杜 さくら俳句大会・他

(前日10:00より植樹活動とデッキづくりを行います)

### 【定休日】

3月は2, 8, 9, 15, 16, 22, 23, 29, 30日

4月は5, 6, 12, 13, 19, 20, 26, 27日(暫定)となります

宜しくお願いします



ひらさ・北郷 桜まつり

(お問い合わせは、お客様サービス係の東野まで)